

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 2021年1月度 番組審議会概要

2021年1月22日（金）

14時00分～

テレビ静岡本社 4階 会議室

－ 出席委員 －

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子 木村 精治
上柳 正仁 飯野 勝己(レポート出席) 松本 恵司 山本 正博(欠席)

－ 議 題 －

番組名 「サッカーの力を信じて ～見えない敵と戦った2020～」
(フジテレビ系28局ネット)

放送日時 2020年12月13日（日） 24時30分～25時25分

制作著作 テレビ静岡

－ 番組内容 －

新型コロナウイルスで様々な影響を受けた2020年のスポーツ界。東京オリンピック・パラリンピックは延期、世界中のプロスポーツも中断された。日本のサッカー界でもJリーグが開催危機に陥った。不安を感じるJリーガー、厳しい経営環境にさらされるクラブチーム、その状況を肌で感じるチェアマンや裏方の人々、さらにこのような中、海外で夢に向かって走り続ける日本人選手たち。彼らが何を感じ、行動し、見えない敵にどう立ち向かっていったのか。激動のシーズンの裏側を追ったドキュメンタリー。

－ 審議概要 －

◎チェアマンからJ3の現場まで、また海外の状況も織り込まれ、それぞれの視点から多角的な切り口で描き出されていた。新鮮な映像が多く、発見が多い番組だった。

- ◎リーダー論や危機管理、経営など、ビジネスでも参考になる内容で学びになった。あらゆることがコロナに翻弄されている世の中を、サッカーという切り口から率直に反映した番組だった。
- ◎村井チェアマンをはじめ、長谷部選手、岡崎選手たちはサッカー界、ひいてはスポーツ界を引っ張って行く存在。彼らの理念はビジネスにも通じるところがあり、共感するところが多かった。また、若い世代にも届く言葉を発することができる人たちなので、コロナへの警鐘にもなったのではないかと。
- ◎村井チェアマンのビジネスマン出身ならではの様々な決断、選手たちの精神的な強さや気持ちの持ち方は、コロナでスポーツ界も何もできない状態の中、自分たちは何をしていくべきか考えるきっかけになった。
- ◎例年、1人の選手やチームに焦点を当てていたが、今回は様々な制約がある中で多面的な取材で構成され、コロナ禍での取材の苦労がうかがえた。
- ◎「サッカーの力」がテーマだったが、東日本大震災の後もスポーツが人々に与えた力は大きなものだった。スポーツには力があるとあらためて感じた。
- ◎この状況の中でこれだけ取材ができたのは、取材者の努力だと思う。選手たちが「このままサッカーを続けられるのか、続けて良いのか」と吐露していたのは、本音に迫っていて説得力があった。
- ◎自分のようなサッカーに詳しくない視聴者にとっては、色々な内容が盛り込まれていて楽しめた。ただ、多くのテーマが時系列で同時進行で進んでいく展開だったため、話が途中で分断され、やや散らかった印象にも映った。
- ◎長谷部選手の誠実な人柄が伺えた。ドイツはロックダウンもあり苦労も多いと思うが、日本との違いがもう少しわかると良かった。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りの参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は2021年3月11日（木）の予定です。